

式 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、
木々の芽吹きが感じられる今日の佳き日に、
白樺学園高等学校第六十一回入学式を挙行できますことは、
本校にとりまして、この上もない喜びであり、
関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

また、本日は、ご多用の中、
芽室町長 宮西義憲 様
白樺学園高等学校PTA会長 工藤雅浩 様
白樺学園高等学校同窓会会長 鈴木正孝 様はじめ
多くのご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜りましたことに対しましても、
厚く御礼申し上げる次第であります。

ただいま入学を許可いたしました
百三十六名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
皆さんを、在校生並びに全職員を代表して心より歓迎いたします。
そして、保護者の皆様、お子さんのご入学まことにおめでとうございます。

皆さんは今、希望に胸を膨らませていることと思います。
でも、その希望を叶えてくれるのは、他のだれかではありません。
夢を実現するのはあくまでも自分であり、
自らが「挑戦」して勝ち取っていくものです。
高校という新たなステージで、
皆さんあらゆることに挑戦してみてください。
失敗することに臆してはなりません。
何事もやってみなければわからないわけですから、
失敗を恐れて何もしないより、
挑戦して失敗するほうが、やってみただけずっとプラスになります。
そしてもし失敗したら、何が駄目だったのかを考えて、
またやり直せばいいのです。
皆さんの先輩、そして先生方も、
皆さんの挑戦をサポートしてくれるでしょう。

昔、江戸時代、会津藩では、
同じ町に住む六歳から九歳までの藩士の子供達を十人前後のグループに分けて、

人としての教育を行っておりました。
このグループのことを人偏に十と書いて、什と呼びました。
この什には、今の世にも通ずるいくつかの掟がありました。
一つ目は、年長者の言うことに背いてはなりません。
二つ目は、虚言（うそ）を言うことはなりません。
三つ目は、卑怯な振る舞いをしてはなりません。
四つ目は、弱いものをいじめてはなりません。
五つ目は、外で物を食べてはなりません。ときて、
最後に、ならぬことはならぬものです。と結ばれています。
今で言う校則のようなものです。

そこで保護者の皆様にお願ひがあります。
本校の生活指導は、他の高校より厳しいと言われております。
あいさつ、服装、頭髪、女子生徒の化粧、規範意識に生活態度、
それこそならぬものはならぬのであります。
そのいずれをとりますしても、皆様のお子さんを一人前の社会人として
世に送り出すための必要不可欠な指導であります。
この先、おそらくお子さんから
そうした厳しい指導に対する不平不満の声が耳に入ることもあると思いますが、
生活指導は家庭との連携、協力無くしてはなし得ません。
どうか本校の教育方針にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて新入生の皆さん、今日から高校生活の始まりです。
皆さんには、是非この三年間
生きることを学んで欲しい、心からそう願っています。
生きるために学ぶのも大切なことではありますが、生きることを学ぶのです。
この校長は、何か小難しいことを言っているなあと
思われる方もおられると思いますので、
生きることを学ぶという意味をお話いたします。
生きることを学ぶ、それは命を大切にすることです。
皆さんは、ただ毎日の生活を送っているように考えているかも知れませんが、
それは間違いです。
皆さんは、ある目的のために生かされているのです。
ある目的というのは、人それぞれ違います。
その目的、自分がこれから果たすべき役割のために
命を大事にすることです。

では、その目的、自分が果たすべき役割を
どのようにして見つけていけばいいのかということです。

皆さんはこの春中学校を卒業して、本校に入学してきました。
まだまだ子ども、未熟者です。
では、皆さんにこうしてお話している私はどうでしょう。
皆さん方から見れば、おじいちゃんに相当する年齢になりますが、
私も同じく未熟者です。

それはなぜか。
人は間違いを犯すからです。
単純なミスはもとより
ちょっとした出来心から、
また、これくらいなら許されるだろうといった甘え、
あるいは自分だけじゃない、他の人もやっているのだから大丈夫といった、
そんな心の隙間に間違いの素は潜んでいるのです。

完全完璧な人間というものは、この世に存在しません。
また、誰も好きこのんで間違いは起こしたくて間違いを起こす人もおりません。
でも未熟であるが故に間違いを起こす。
だから、人は間違いを犯さないように、死ぬまで学び続けなければならない。
それは、学校の勉強のことだけを言っているではありません。
学校の勉強はむしろ、生きるために学ぶという範疇です。
生きるために学ぶだけではなく、
自分自身の価値を高めるための勉強、
例えば偉人が書いた本を読んだり、人の話に耳を傾ける、
そんな勉強が必要になります。

そうした常に学ぶ、教えを請う気持ちを持っている人は、
自然に頭を下げることができます。
皆さん方は、挨拶するときお辞儀をしますでしょう。
「おはようございます」は、朝早くから学ばせていただきます。
「こんにちは」は、日のあるうちは一生懸命学ばせていただきます。
「今晚は」と言ってお辞儀をするのは、
夜遅くまで学ばせていただきありがとうございました。
挨拶するとき頭を下げるのは、そういうことなのです。

日常から、ありとあらゆることに学ばせていただくという謙虚な姿勢を持つ、
そうやって自分の目的、果たすべき役割を見つけていく
このことが生きることを学ぶという本当の意味です。

皆さんこの先は、楽しいことばかりではありません。
辛いこともたくさん起こるでしょう。
でも、そこから逃げないで下さい。
すべての試練も、生きることを学んでいるのだと思えば、
心に余裕もできますし、必ず手を貸してくれる人が現れるものです。

高校生活は、あっという間に過ぎてしまいます。
皆さんの先輩達が口々にそう言って卒業していきました。
その貴重な時間を無為に過ごさず、しっかりと目標を見定め、
その目標に近づくための計画を立てて、
そしてその計画を着実に進めていく努力を積み重ねていただきたい。
皆さんなら必ずできます。
自分自身を信じて下さい。
私も皆さんを信じています。

結びに、新入生の皆さんの高校生活が、
有意義で楽しく、充実したものとなりますよう
心から祈念申し上げ式辞といたします。

平成三十年四月十日

白樺学園高等学校
校長 嶋野 幸也